

「この人 46」

川島智子 77歳 神奈川県

編集部 俳句を始められたのは？

川 島 高校の時の担任が、加藤楸邨の弟子で、一九七三年に、「寒雷」に入るよう勧められました。楸邨が亡くなった時、「寒雷」をやめました。俳句は、勝手に作っていましたが、朝日新聞で滑稽俳句のことを知りまして、俳句に対する考え方が一緒でしたので、すぐに申し込みました。

編集部 滑稽俳句の魅力は？

川 島 自分がこれまで学び生きて来て、納得のできる言葉、滲み出る面白さに魅力を感じます。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

川 島 単なる駄洒落ではなく、ユーモアがあり含蓄のあるものです。

編集部 滑稽俳句を続けていて良かったことは？

川 島 滑稽俳句には、前向きの志向があり、本当に老後の楽しみとなりました。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

川 島 何時でも、何処でも、何でもよく観察し、興味を持つことです。またそうしていると、退屈する事はありません。

【代表句】

緑蔭に欠伸残して尻去りぬ
露座仏の鼻の穴みて嚏せり
花散りぬ開くだけあけし河馬の口
猫のあとねこの足して落花ふむ
絵も文字も下手はへたなり柿の蒂